

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和7年6月24日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者

住 所 千葉県市原市五井南海岸6番地
氏 名 東洋スチレン株式会社五井工場
工場長 小澤 幸一
電話番号 0436-26-3211

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	東洋スチレン株式会社五井工場
事業場の所在地	千葉県市原市五井南海岸6番地
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

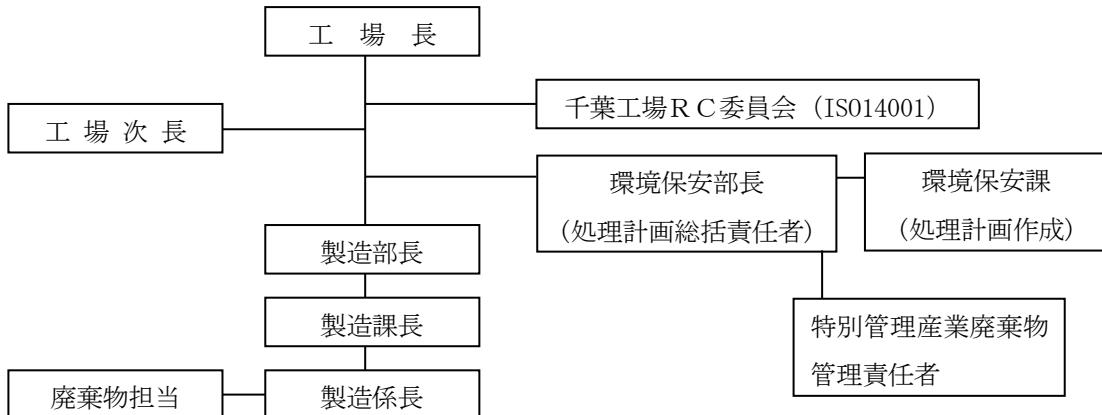
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	大分類：製造業 中分類：化学工業
②事業の規模	製造品出荷額 14,000百万円
③従業員数	26人(正社員 26人、常勤関係職員 0人)
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>製造工程 → 引火性廃油 →</p> <p>→ 委託処理(中間処理；油水分離) → 再生燃料化</p>

(日本工業規格 A列4番)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図) デンカ株式会社千葉工場に管理を委託



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】			
特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油		
排 出 量	54 t		t
(これまでに実施した取組)			
①現状 <ul style="list-style-type: none"> ・ 製造工程の改善、精製工程の運転最適化により、廃油発生量を抑制している。 ・ 製造設備が稼働・停止を繰り返すと、廃油発生量は増加するところから、生産計画を綿密に立て、連続運転することによりロス（＝廃油）を削減している。 ・ 前年度は大型定修工事を実施したため、一時的に廃油発生量が増加した。 			
【目標】			
特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油		
排 出 量	30 t		t
(今後実施する予定の取組)			
②計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記取組みを継続するとともに、トラブルによる製造設備の停止を起こさないようにする。 			

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ 引火性廃油：場内で副生燃料として利用できるよう、異物等が混入しないように管理している。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、廃油に異物等が混入しないように管理する。

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	該当無し	
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
・ 自社で特別管理産業廃棄物の再生利用は行っていない。			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	該当無し	
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
・ 自社で特別管理産業廃棄物の再生利用する計画はない。			

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	該当無し	
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
・ 自社で特別管理産業廃棄物の中間処理は行っていない。			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	該当無し	
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
・ 自社で特別管理産業廃棄物の中間処理をする計画はない。			

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】		
特別管理産業廃棄物の種類	該当無し	
自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)		
・自社で特別管理産業廃棄物の埋立処分は行っていない。		
【目標】		
特別管理産業廃棄物の種類	該当無し	
自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)		
・自社で特別管理産業廃棄物の埋立処分を行う計画はない。		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】		
特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
全処理委託量	54t	t
優良認定処理業者への処理委託量	54t	t
再生利用業者への処理委託量	54t	t
認定熱回収業者への処理委託量	0t	t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	t
(これまでに実施した取組)		
・引火性廃油については、全量、優良認定を受け、再生燃料油として再生利用ができる業者に処理を委託している。		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	
	全処理委託量	30 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	30 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	30 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
電子情報処理組織の使用 に関する事項	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	<ul style="list-style-type: none"> 引続き、引火性廃油については、全量、優良認定を受け、再生燃料として再生利用ができる業者に処理を委託する。 		
【前年度（令和6年度）実績】			
電子情報処理組織の使用 に関する事項	特別管理産業廃棄物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	54 t	
	(今後実施する予定の取組等)		
<ul style="list-style-type: none"> 既存処理先については、全処理先で電子化済み。 新規処理先についても、全処理先で電子化する。 			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。